

新しい時代を担う体力づくり

「協働」の取り組みについて紹介します

第7回

市民のみなさんからは、公共工事や社会福祉の充実などが強く求められていますが、市の財政は、国の行財政改革等の影響で年々厳しさを増しており、もはや市民のみなさんの要望に行政だけで対応していくことは困難になりつつあります。これからは、市民のみなさんでできることは自主的にやっていく、どうしても市民の力だけでできないことは、市民と行政が力を合わせて実施することが不可欠となっています。

こうした方向は、何も新しいことではありません。それぞれの地域で、多様でユニークな取り組みが進められています。今月号では、その一部を紹介しますので、みなさんも「行政と市民のパートナーシップ」によるまちづくり活動の可能性を考えてみてください。



国道沿いの花壇を植栽する「きわらボランティアグループ」

「きわらボランティアグループ」の花壇づくり活動

きわらボランティアグループ（森本正子代表）は、尾崎区の女性が中心となって国道9号線の沿道に花を植える活動を行っています。

活動を始めたのは平成14年で、当初は土質も悪く花が思うように育たなかった時期もありましたが、近隣から堆肥を分けてもらって土を肥やすなど、みなさんの努力によって今では一面に花が咲き誇る花壇になりました。

4つに区切られた花壇は細長く、

日当たりの良い所や悪い所があるため、場所によって花の種類を変えるなど工夫を凝らし、沿道を通る方の目を楽しませています。

花の植え付けは年に3回。力仕事が必要なときには、男性に協力をお願いして作業を行っています。また、暑い時期には週に3日以上も水やりが必要になるため、メンバーを数グループに分けて対応しています。

森本代表は「一番嬉しいことは、活動の中で仲間づくりができたこと。自分たちの地域を、きれいな花でいっぱいにするので、笑顔もいっぱいになりました」と話されています。



レストハウス天滝の運営等を行う「天滝を生かす会」

「天滝を生かす会」の活動

天滝を生かす会（中尾登美夫代表）は、昭和55年に「名勝天滝を多くの人に知ってもらいたい」と、大屋町篠区の有志8人で結成されました。

登山道の整備と清掃、河川のゴミ拾いなど、地道な活動を続けるうちに賛同する区民の輪が広がり、地域内の看板の設置、天滝の唄のCD製作、「天滝祭り」や「もみじ祭り」を主催するなど活動の幅を広げてきました。

結成時は、男性だけの会でしたが、天滝の登山口で、うどんやお土産を